

令和5年度 ノースアジア大学・秋田栄養短期大学

卒業証書授与式 学長告辞

寒かった冬も終わって、暖かい春が訪れようとしております。

このすばらしいときに、本学を卒業していく諸君に、心からお慶びを申し上げたいと思っています。また、ご列席の皆様にも、この場をお借りして御礼を申し上げる次第です。

さて、学生諸君にお話しするのもこれが最後になるかもしれません。

私は、あなた方に、どうしたら幸せに生きていくことができるか、仕事成功するためにどうしたらいいかということを、ぜひ話をしておきたいと思っています。

幸せな人生を送ることができるかどうかというときに、一番大切なことは、仕事です。人生のうちで、かなりの部分を占める、仕事もし楽しくないとすれば、それはつまらない人生になります。

皆さんはどうやって仕事を選んでいきますか。ステータスですか、給料ですか、お金ですか。でも、仕事そのものが嫌いだったら、嫌だったら仕事は続かないんです。

好きな仕事ができるか、これは非常に大切なことです。幸せな人生を送るために、非常に大切なことです。

しかし、自分がしたい仕事に就けたという人は、とても少ない。ほとんどいないと言ってもいいでしょう。

もし、仮に、皆さんが、自分がやりたい、本当に好きだという仕事に就けたとしても、実は、最初は、あるいは何年間もですが、大切な仕事を任せてはもらえないんです。諸君がやる仕事は、最初は本当に平凡です。窓口であったり、書類を整理するだけであったり、一見すると誰でもできそうな仕事なんです。

前に、アメリカでタイピストをやっていた女性がいます。今ならば、パソコンで文章を打つということになりますけれども、そんな女性の事務員の人が出て、ただ、ただ、上司から渡された原稿を打つ仕事でした。退屈でつまらない、やめようと、そう思っていた。

だけど、この人は、そういう仕事だって、やり方によっては面白くなる、そう考えたんです。機械的に、今まで原稿を打っていたのを、上司がどういうことを言おうとしているか、文章の趣旨を考えるようになったんです。それから、仕事の中にゲームを導入したんです。1分間に何字打てるか、そして、誤字が何字あるか。そのグラフを

作って、目の前に貼ったんです。競争です。だんだん自分の成績が上がって、誤字脱字もなくなっていく。そうすると、仕事がかげん面白くなっていきます。その人は、タイピストのコンテストに出ますけれども、州の大会に優勝し、やがて、アメリカ合衆国の全国のコンテストでも優勝しています。大変有名な方。「仕事を面白くする方法」、ということで、全国で講演もしています。

この人の例にもあるように、仕事自体が面白くないのではない。問題はこちら側にあります。心の中に問題がある、そういうことだと思います。

夕方になれば、何度も時計を見る、退社の時間を考える。そんな人たちが、仕事で成功者になったためしがないんです。そういうことをよく知ってもらいたいと思います。

本田宗一郎という人がいます。皆さん、ご承知のように、世界のホンダの創業者。この人は、高等小学校しか出ていない。学問はなかった。自転車屋です。だけど、日本で初めて自転車にエンジンをつけた。原付自転車、バイクを作った人です。オートバイが大好きだった。

この当時は、交通手段は、自転車だった。自転車の荷台に、荷物を積んで運ぶ。リヤカーをつけて、自転車で引っ張る。人の力でみんなやるんです。だから、坂を上がるのが非常に大変だった。本田は、進駐軍から払い下げを受けた小型のエンジンを、何とか、自転車に付けられないか、そういうふう考えたんです。

日中は、自転車の修理をする。自転車を売る、パンクを直す。そんなことで生活をしていたんですが、仕事が終わったら、エンジンをやったんです。非常に熱心な人だった。一生懸命です。

店員さんたちが住み込みでいたんですが、みんなで、エンジンを自転車につける、動力を車輪に伝導させる、そういうことを、何回も何回も、夜遅くまで繰り返していたんです。しかし、学問のない本田にとってみれば、これは大変難しいことでした。その後、浜松高専に聴講生として通います。この学校には、卒業するために通ったんじゃないんです。なんとか、エンジンを勉強したい、自転車につけられないか、そういう思いがあって勉強したんです。

本田宗一郎は、一生涯、つなぎの服を着てオートバイをいじっていた、そういう人生です。会社の経営は、全て、藤沢さんという副社長に任せていたんです。明けても暮れても一日中車です。自動車以外に趣味を持つということはなかった人です。幸せな人生だったと思います。

諸君は、若い。まだ未完かもしれません。しかし、秘められた力がある。どんなに苦しいことがあっても、決して諦めないで、乗り越えて行ってほしいと思います。今日の卒業生の中から、いろんな分野で、大変な成功者が出てくることを、私は期待しております。

みなさんと二度とお会いすることが出来るかどうか、分かりません。諸君は、これから一人で生きていく。ご両親の力を借りることができないという、そういうことでもあります。しっかりと人生を歩んでいただきたいと思います。

みなさんが、やがて大成され、人生を立派に過ごされることをお祈り申し上げたいと思います。

令和 6 年 3 月 16 日

ノースアジア大学

秋田栄養短期大学

学長 小泉 健